(19) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

⑩ 公開特許公報(A)

昭55—22638

⑤Int. Cl.³A 61 K 7/13

識別記号

庁内整理番号 7432-4C 砂公開 昭和55年(1980)2月18日

発明の数 2 審査請求 未請求

(全 3 頁)

9染毛剂

顧 昭53-95693

②出

②特

願 昭53(1978) 8月3日

⑩発 明 者 山口春夫

京都市伏見区竹田内畑町153番

地

⑪出 願 人 山口春夫

京都市伏見区竹田内畑町153番

地

個代 理 人 弁理士 北村学

朔 和

1. 発明の名称 助毛剤

2. 特許請求の範囲

1. カチオン染料を主成分とする染毛剤

1 カチオン染料を主成分とする染毛剤と過酸 化水素水を含有する脳色剤との組合せからなる 染毛料セット。

3. 発明の詳細な説明

この発明は毛髪を多様な色彩に染めるための染 毛剤に関するものである。従来毛髪の染色に用い られたのは酸化性の染料であって、この染料はそ れ自体が暗色を呈さないが、毛髪内に浸透した後 で酸化反応や縮合反応によって発色し染毛するも のである。この場合酸化時間を短縮するために適 常温酸化水素水などの発色剤と呼ばれる酸化剤が 併用される。

酸化性染毛剤としては主にパッフェニレンジア ミンなどの芳香族アミンが使われ、この他に色舞

調整剤としてレゾルシン、カテコール、ピロガロ - ルカどが添加される。

との酸化性染毛剤は白髪のカムフラージュ用に 広く使用されているが、との種の染毛剤により染 められる色は風色が主体であり、他に栗色など禍 色系統の色彩があるだけである。

しかしながら最近でアッションの多様化が進む につれ、多様な色彩への築毛が強く要譲されるようになった。

との発明はこのような要鍵に応えるものであって、毛髪を多様な色彩に簡単に染色することのできる染毛剤を提供することを目的としている。 この発明にかかる染毛剤は塩基性のいわゆるカチオン染料を主成分とするものである。

塩基性染料は繊維・羊毛・皮革などの染色に古くから使われてきたが・色彩が鮮やかであるかわりに日光に弱く・容易に退色するという欠点をすっていた。この欠点を改善したのがいわゆるカチオン染料であり、その色彩の鮮やかさと日光照ろり度の高さによって住目されていることは異知の

通りである。従来の塩基性染料にくらべてカチオン染料の特徴は染料の発色共役系とオニウム基とが値々の絶縁基によって結合されているか又は複素現をもっていることであり、染料の色相や堅ろう性は発色系によって、また繊維との結合はオニウム基によって受け持たれると考えられる。

いずれにしても、このカチオン染料を含め塩蓄 性染料が毛髪の染色に用いられたことはなかった。 これはカチオン染料が開発される前の塩基性染料 が一般に日光に弱かったこと、及び黒色の毛髪が そのままではカチオン染料を含む塩基性染料で染 色されないことの理由によるものと思われる。

最近、発明者はカチオン染料と呼ばれる一連の 染料があらかじめ前処理を施こした毛髪をよく染 色し、その染色された色彩が長期間にわたり安定 であること、および毛髪、皮膚などに有害でない ことを見出し、これを主成分とする染毛剤を開発 した。

との染毛剤について説明すれば以下の通りである。との発明にかかる染毛剤は一連のカチオン染

料の1または2以上を含有し、粉体または液体の形で提供される。これらの他に無機塩などの稀釈剤を添加しておけば取扱い上便利であり、さらに染毛の効果をあげるため界面活性剤や溶皮調整剤を添加してもよいが、最も増的にはカチオン染料のみでもよい。

使用に取してはこの染毛剤を数パーセントの水溶液とし、あらかじめ脱色処理を施こした毛髪に 塗布するのである。これにより毛髪は鮮やかな色 彩に染色される。毛髪に残っている余分な染毛剤 は通常の方法でシャンプーして洗い落せばよい。

前処理としての脱色処理は過酸化水素水溶液に 毛髪を浸漬することにより行なわれる。この場合 過酸化水素水溶液に適当な界面活性剤を添加すれ ば効果的である。

以下に本染毛剤を用いた染毛の実施例をあげて、説明する。

(突施例1.)

先才 6 労過酸化水素水溶液中に風景を約 2 0 分 関節後浸渍し。充分水洗したのちドライヤーで乾

繰した。との前処理により黒髪はほぼ象牙色に脱色された。

次に下記の構造をもつ C ・1 ・ペーシックブルー3 と呼ばれる化合物 (C. 1. 51004 該当)を主成分とする市販のカチオン染料を熱揚で溶かして2 %溶液とした。

$$(H_{8}C_{2})_{2}N \bigcirc -N = \bigcirc N(C_{2}H_{5})_{3}$$

$$+ \bigcirc \cdots$$

$$\overline{CI}$$

この格赦をゴム手袋をはめた指で、上記脱色処理を施とした毛髪に塗布しつつドライヤーで乾かしていったところ毛髪はすぐに青色に染色された。 このようにして染色された毛髪を普通に行なわれるような方法でシャンプーし水洗したのち乾燥した。染色された毛髪の色彩は鮮やかであった。 (実施保2)

実施例1の背色染料のかわりに市販のレッドバイオレット染料を用いて飼機な手順で染毛したと とろ毛髪は鮮やかな赤紫色となった。

(獎施例 3)

間様に染料を市販のカチオンイエロー染料にか えて染毛したところ毛髪は鮮やかな黄色となった。 (実施例4)

次に、実施例1で用いた青色染料と実施例3で用いた黄色染料を混合し、これを染料として開様な手順で染毛したところ脱色された毛髪は鮮やかな級色に染色された。

との例のようにカチオン染料のうちの適当な複数種を組合せて用いることにより多様な色彩への 染毛が楽しめるのである。

また、染色の方法は能述の如く人手で塗布するだけでよいのであるから毛髪全体を小区分し、各区分とといり、各区分とに発力を含むたり、というないの他にもカチオンジ染料など多種にわたるカチオンの、カチオンピンク染料など多種にわたが、いずれの場合にも染色された色は6ヶ月を経ても大きな状を生じることもなかった。また、毛髪、皮膚などに異状を生じることもなかった。

アクリル舗維、羊毛などをカチオン染料で染色する場合は染料を溶かした溶液中において100でで60分間程度煮沸するのが普通であるが、これはこれらの材料が実用中に洗剤などで洗われることを考慮し、色彩の安定化をはかるために行なわれるものであり、毛裳の場合はそのような必要はない。

従来の酸化性染毛剤で染毛した場合は毛髪は光 択に乏しく。櫛の通りも良くなかったがカチオン 染料で染毛した場合は光沢・櫛の通りともすぐれ ている。

染色に厳してこれらカチオン染料は毛髪の皮質中のメラニン色素が脱け落ちた空隙に入り込み、 それが透明な毛表皮を通して見えるため光沢がす ぐれているものと考えられる。

本発明にかかる染毛剤と過酸化水素水を含む脱色剤とをセットとして提供すれば需要家にとって きわめて便利である。

代理人 弁理士 北 村



-225-